



2025年6月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月7日

上場会社名 株式会社ユビテック 上場取引所 東
 コード番号 6662 URL https://www.ubiteq.co.jp/
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 大内 雅雄
 問合せ先責任者（役職名） 管理部門管掌執行役員（氏名） 江面 祥行（TEL）03(5447)6731
 半期報告書提出予定日 2025年2月7日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年6月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年7月1日～2024年12月31日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年6月期中間期	559	29.5	△128	—	△128	—	△129	—
2024年6月期中間期	432	24.5	△163	—	△162	—	△164	—

（注）包括利益 2025年6月期中間期 △129百万円（—%） 2024年6月期中間期 △164百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年6月期中間期	△8.75	—
2024年6月期中間期	△11.13	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年6月期中間期	2,140	1,879	86.3
2024年6月期	2,363	2,008	83.6

（参考）自己資本 2025年6月期中間期 1,846百万円 2024年6月期 1,976百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年6月期	—	0.00			
2025年6月期	—	—			
2025年6月期（予想）					

（注）1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年6月期の期末配当予想については、現時点では未定であります。

3. 2025年6月期の連結業績予想（2024年7月1日～2025年6月30日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期								

（注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2025年6月期の連結業績予想につきましては、現時点において信頼性の高い数値を合理的に算出することが困難な状況であることから未定とし、記載しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年6月期中間期	14,791,600株	2024年6月期	14,791,600株
2025年6月期中間期	一株	2024年6月期	一株
2025年6月期中間期	14,791,600株	2024年6月期中間期	14,791,600株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (中間期)

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信 (添付資料) 3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	7
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(表示方法の変更)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
3. その他	11
継続企業の前提に関する重要事象等	11

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、社会経済活動の正常化が進み、企業収益や雇用・所得環境の改善を背景に、緩やかな回復基調で推移した一方で、ウクライナ情勢・中東情勢などの地政学的リスクは高い状況が続いており、またトランプ政権による他国への関税措置が我が国経済に及ぼす影響など、景気の先行きについては依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社及び連結子会社は2022年6月期を初年度として4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を推進しております。本中期経営計画では従来から保有するIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用をコア技術の柱とした新たなビジネスモデルへの転換を図っており、経営資源を「Work Mate」「D-Drive」「カーシェア関連事業」の3事業に集約し、各サービスの開発、リリース、ブラッシュアップに注力しております。

当中間連結会計期間における主な活動といたしましては、安全見守りサービス「Work Mate」及び安全運転支援サービス「D-Drive」のサービスのブラッシュアップを行うとともに、前連結会計年度から引き続きWEBマーケティングを通じた積極的な広報活動にて、新規顧客の獲得に取り組んでおり、導入実績は着実に増加しております。なお「D-Drive」においては、当第2四半期より当社独自開発のアルコール・インターロック機能と、株式会社パイ・アールが提供する白ナンバー向けアルコールチェック管理システム市場におけるシェア最上位である「アルキラーNEX」とのサービス連携を開始したことから、今後の新規顧客の獲得がより一層増加することが期待されます。

当中間連結会計期間の業績につきましては、売上高は559百万円(前年同期比29.5%増加)、営業損失は128百万円(前中間連結会計期間は営業損失163百万円)、経常損失は128百万円(前中間連結会計期間は経常損失162百万円)、親会社株主に帰属する中間純損失は129百万円(前中間連結会計期間は親会社株主に帰属する中間純損失164百万円)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

IoT事業

IoT事業は、「D-Drive」の受注増による売上高の増収がありました。また、「Work Mate」の導入数は順調に伸びておりますが、当中間連結会計期間において前中間連結期間にあった大型設備の導入を伴う契約がなかったことから当中間連結会計期間におけるIoT事業の売上高は減収となりました。なお、セグメント損失については、当中間連結会計期間における「Work Mate」の導入数の増加により利益率の高いクラウドサービス利用料の売上が増加したことから、損失幅は前中間連結会計期間より縮小しました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は287百万円(前年同期比5.0%減少)、セグメント損失は38百万円(前中間連結会計期間はセグメント損失51百万円)となりました。

製造受託事業

製造受託事業は、前期より取り組んでおります歯科診療向け咬合力計測機器用回路基板の販売が順調に推移しました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は175百万円(前年同期比-)、セグメント利益42百万円(前中間連結会計期間はセグメント損失2百万円)となりました。

(注) 売上高の増減率は1,000%を超えるため、「-」と記載しています。

開発受託事業

開発受託事業は、子会社のユビテックソリューションズにおいて、保険分野における受託開発案件が減少したことにより売上高は減収となりましたが、前連結会計年度から継続して取り組んでいる業務効率化効果により、セグメント利益は前中間連結会計期間と同水準となりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は96百万円(前年同期比23.5%減少)、セグメント利益は2百万円(前中間連結会計期間はセグメント利益2百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産の状況)

当中間連結会計期間末の資産合計は2,140百万円となり、前連結会計年度末から223百万円減少しております。主な内容としましては、現金及び預金227百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が34百万円減少しております。

(負債の状況)

当中間連結会計期間末の負債合計は260百万円となり、前連結会計年度末から94百万円減少しております。主な内容としましては、支払手形及び買掛金が44百万円、電子記録債務が52百万円減少しております。

(純資産の状況)

当中間連結会計期間末の純資産合計は1,879百万円となり、前連結会計年度末から129百万円減少しております。主な内容としましては、親会社株主に帰属する中間純損失129百万円の計上によるものです。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という)の残高は、以下の各キャッシュ・フロー状況とそれらの増減要因により、前連結会計年度末に比べて227百万円減少し、当中間連結会計期間末は1,207百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は87百万円(前中間連結会計期間は63百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前中間純損失128百万円、減価償却費36百万円、売上債権の減少34百万円、棚卸資産の増加1百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は139百万円(前中間連結会計期間は108百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出89百万円、無形固定資産の取得による支出50百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローはありませんでした(前中間連結会計期間は0百万円の支出)。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社及び連結子会社は中期経営計画として、2025年6月期に連結売上高30億円、連結営業利益3億円の達成を目標に掲げており、これを実現するため、「Work Mate」及び「D-Drive」のさらなる拡販に注力するとともに、オリックスグループとも連携しながら新たなビジネス開発を進めてはいるものの、2025年6月期の連結業績予想につきましては、現時点において信頼性の高い数値を合理的に算出することが困難な状況であることから未定とし、記載しておりません。今後、連結業績予想の算定が可能となった時点で、速やかに開示いたします。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,434,391	1,207,290
受取手形、売掛金及び契約資産	362,463	328,031
商品	35,597	28,358
製品	64,714	93,338
仕掛品	613	547
原材料及び貯蔵品	138,837	119,504
その他	52,490	20,151
流動資産合計	2,089,108	1,797,221
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	55,985	55,216
減価償却累計額	△28,984	△30,827
建物及び構築物(純額)	27,001	24,388
工具、器具及び備品	381,195	432,577
減価償却累計額	△262,969	△273,036
工具、器具及び備品(純額)	118,225	159,540
建設仮勘定	189	—
有形固定資産合計	145,417	183,929
無形固定資産		
その他	96,865	126,545
無形固定資産合計	96,865	126,545
投資その他の資産		
その他	32,547	32,336
投資その他の資産合計	32,547	32,336
固定資産合計	274,830	342,811
資産合計	2,363,938	2,140,033

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2024年6月30日)	当中間連結会計期間 (2024年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	66,058	21,397
電子記録債務	156,928	104,053
未払金	62,640	59,652
未払法人税等	9,032	5,641
賞与引当金	872	872
その他	54,205	63,802
流動負債合計	349,737	255,420
固定負債		
退職給付に係る負債	5,254	5,082
固定負債合計	5,254	5,082
負債合計	354,992	260,502
純資産の部		
株主資本		
資本金	941,473	941,473
資本剰余金	655,375	655,375
利益剰余金	379,219	249,738
株主資本合計	1,976,068	1,846,587
非支配株主持分	32,878	32,942
純資産合計	2,008,946	1,879,530
負債純資産合計	2,363,938	2,140,033

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
売上高	432,210	559,874
売上原価	368,554	431,900
売上総利益	63,655	127,974
販売費及び一般管理費	226,949	256,491
営業損失(△)	△163,293	△128,517
営業外収益		
受取利息	8	132
固定資産売却益	752	-
生命保険配当金	356	309
未払配当金除斥益	186	-
その他	121	144
営業外収益合計	1,424	586
営業外費用		
為替差損	2	45
固定資産除却損	349	0
雑損失	-	57
その他	-	0
営業外費用合計	351	103
経常損失(△)	△162,220	△128,034
税金等調整前中間純損失(△)	△162,220	△128,034
法人税、住民税及び事業税	2,043	1,381
法人税等合計	2,043	1,381
中間純損失(△)	△164,263	△129,416
非支配株主に帰属する中間純利益	310	64
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△164,574	△129,480

中間連結包括利益計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
中間純損失(△)	△164,263	△129,416
中間包括利益	△164,263	△129,416
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△164,574	△129,480
非支配株主に係る中間包括利益	310	64

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純損失(△)	△162,220	△128,034
減価償却費	31,612	36,835
賞与引当金の増減額(△は減少)	△122	—
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	—	△172
受取利息及び受取配当金	△8	△132
為替差損益(△は益)	1	45
固定資産除却損	349	0
固定資産売却損益(△は益)	△752	—
売上債権の増減額(△は増加)	122,590	34,431
棚卸資産の増減額(△は増加)	△37,687	△1,985
仕入債務の増減額(△は減少)	△18,719	△97,535
未払金の増減額(△は減少)	△6,428	32,342
未収消費税等の増減額(△は増加)	△6,019	20,184
その他	16,821	21,714
小計	△60,583	△82,305
利息及び配当金の受取額	2	100
法人税等の支払額	△2,437	△5,198
法人税等の還付額	2	2
営業活動によるキャッシュ・フロー	△63,015	△87,401
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△59,110	△89,603
有形固定資産の売却による収入	728	—
無形固定資産の取得による支出	△50,239	△50,051
資産除去債務の履行による支出	△385	—
敷金及び保証金の回収による収入	98	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△108,907	△139,654
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1	—
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△45
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△171,925	△227,101
現金及び現金同等物の期首残高	1,517,194	1,434,391
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,345,268	1,207,290

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(中間連結キャッシュ・フロー計算書)

前中間連結会計期間において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれていた「未収消費税等の増減額」は、金額的重要性が増したため、当中間連結会計期間より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「未収消費税等の増減額」として独立掲記することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前中間連結会計期間の中間連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前中間連結会計期間の中間連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示しておりました10,801千円は、「未収消費税等の増減額」△6,019千円、「その他」16,821千円として組替えております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前中間連結会計期間(自 2023年7月1日 至 2023年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	303,080	3,156	125,972	432,210	—	432,210
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	303,080	3,156	125,972	432,210	—	432,210
セグメント利益又は損失 (△)	△51,360	△2,086	2,221	△51,225	△112,068	△163,293

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△112,068千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△112,068千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年7月1日 至 2024年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	中間連結損益 計算書計上額 (注) 2
	I o T事業	製造受託事業	開発受託事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	287,913	175,555	96,405	559,874	—	559,874
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	287,913	175,555	96,405	559,874	—	559,874
セグメント利益又は損失 (△)	△38,984	42,646	2,016	5,677	△134,194	△128,517

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△134,194千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用△134,194

- 千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント利益又は損失は、中間連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社及び連結子会社は、継続的な売上高の減少及び前連結会計年度まで4期連続して営業損失を計上し、当中間連結会計期間においても営業損失を計上していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在していると認識しております。

このような中、当社及び連結子会社は、2022年6月期を初年度とする4カ年の中期経営計画「ユビテック4.0」を策定して企業理念を再定義し、従来のIoTテクノロジーに加え、AI・データ活用を今後のコア技術の柱とした新たなビジネスモデルへの転換を図ることで、当該重要事象の早期解消を目指しております。

なお、当社及び連結子会社は当中間連結会計期間末において、現金及び預金1,207百万円を保有しており、財務面における安定性については十分に確保されていると考えていることから、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないと判断しております。